

「生誕 100 年 清宮質文」の楽しみ方をいろんな人に聞く「清宮質文」の歩き方 ②

今回は若葉保育園の年長さんです！いつもありがとう。



《孤独な魂》



《火を運ぶ女》「オバケみたい。目が一つとか二つなのは何で？」(みんな)

…そう！清宮さんは絵を「オバケ」って呼んでました。目もほんとの目じゃないかも？



《ながれ》

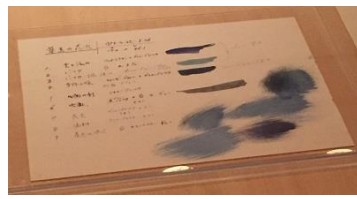
「夜だったのが、だんだん明るくなって朝になってくみたい。」(女の子)

何色が一番多い？(学芸員)「黒！」(みんな)、「水色」(女の子)、「こげ茶色」(男の子)、「深緑！」(女の子)

…清宮さんは緑色が好きだったんだ。さがしてみよう！(学芸員)「ここにも、ここにも緑があるよ！」(みんな)



《葬送の花火》



《葬送の花火》色見本 …見本で色を探して、本当の絵にするんだよ。(学芸員)

「いろんな青…それから黒に白をまぜたのとか。」(男の子)「強くあててる。怒ってるの？」(女の子)

…怒ってたかも！(学芸員)



《失題》



《小塚と夕日》

「みんな 1983 年 66 歳って書いてある。」(女の子)…大発見！この壁の絵は同じ年に描いたの。(学芸員)

「《失題》のかたちも悲しくみえる。」「塚の外にたましいがあって、それが中に入ってくみたい。」(男の子)

もうおじさんがお話することは何もありません。(学芸員)



《冬の夕》



《無題(未完)》「みんなサインがないよ。」(女の子)「悲しい。つらそう。」(みんな)

…また大発見！亡くなる前に描いていたから途中だったの。悲しい気持ちも絵になるんだね…(学芸員)